



Botswana Medical Information



2019年5月

【報道記事抜粋】

●レムピュ中等学校で発生した謎の病は未だ解決せず

レムピュ中等学校で発生した説明不能な病気は、保健当局が集団ヒステリーとしているが、いまだ生徒達をむしばみ、村人や教育関係者は治療法がないことに失望している。3月に100人以上の生徒達が歩行時によるよろよろするような症状を呈し、病院に1週間程度入院したが、帰宅後再度症状が出現している。先週学校が再開以来、現在70名ほどの生徒が症状により家に戻っている。この病気は科学的な問題だが心からはじまっている病であるため、治療がなく、医師達は、生徒や親に対してカウンセリングを続けることを薦めている。村の副代表はすべてを神にまかせているとインタビューに答えた。地区の教育担当者によると、20日以上問題が持続するようなら、教育省としての対応を考慮するとのこと。(6日モニター)

● エイズウイルス治療薬 (ARV) を患者の家まで届ける

Mogoditshane/Thamaga 地区の Nkoyaphiri 付近の家庭や職場に ARV を届けて Nkoyaphiri clinic の混雑を防ぐという地域での薬の補充のパイロットプロジェクトが開始されることが同地区サブカウンシル会議にて発表された。現在、同クリニックでは毎日90人程度の患者へARVの処方をしているが、新しいプロジェクトにより、60人/日へ減らすことを目標としている。同クリニックには、毎日250人程度の患者と90人のARV処方患者が訪れ、計400人近い患者が受診している。また、小学校で朝食を提供することも発表された。(20日デイリーニュース)

● Selebi Phikwe 病院は、南部アフリカの医療機関のヘルスサービスの質を評価する団体 (COHSASA) より認定を受ける

Selebi Phikwe 病院 (公立病院) は、2012年、2013年に国内で一番の医療施設として表彰された後、2014年からCOHSASAによる医療サービスの質の評価をうけるべく、医療者のキャパシティービルディングやマニュアルの作成などに取りかかり、2015年に73%、2018年に95%の評価を達成し、2年間の認定期間を得た。同病院では、2017年妊婦の死亡者がなく、5歳以下死亡率も低く、HIV患者が多いにもかかわらず、関連死亡率が低い。(21日デイリーニュース)

文責：高原 野草 (在ボツワナ日本大使館医務官)